

平成29年度 第1回野生鳥獣被害対策本部会議 議事録

1 日時 平成29年7月11日(火) 午前10時から午前11時30分

2 場所 長野県庁本庁舎 特別会議室

3 会議事項

- | | |
|--|-----|
| (1) 野生鳥獣被害対策基本方針について | 資料1 |
| (2) 平成28年度 野生鳥獣による農林業被害の状況について | 資料2 |
| (3) 平成28年度 ニホンジカの捕獲実績について | 資料3 |
| (4) 平成29年度 野生鳥獣被害対策の主な取組について | 資料4 |
| (5) その他 | 資料5 |
| (6) 研修「信州におけるツキノワグマとの向き合い方ー生態や行動、対処法ー」 | 資料6 |
- 講師 濱口あかり氏(NPO法人ツキノワグマ研究会、広域鳥獣保護管理員)

4 議事

事務局及び担当部局から、それぞれ資料等に基づき説明を行い、意見・質問を問うたところ、次のとおり意見・質問とそれに対する説明があった。

発言者	発言内容
事務局	<p>ではただいまから、平成29年度第1回野生鳥獣被害対策本部会議を開催いたします。本日の全体の進行を務めさせていただきます対策本部事務局の鳥獣対策・ジビエ振興室の江住和彦でございます。よろしくお願いいたします。</p> <p>それでは、会議に先立ちまして、副本部長の中島副知事からごあいさつをお願いします。</p>
中島副知事	<p>皆さまお疲れ様でございます。副知事の中島でございます。野生鳥獣被害対策本部会議に先立ちまして挨拶を申し上げます。</p> <p>被害対策については、県各部局はもとより、市町村、猟友会など関係者の皆様の積極的な取組をいただいていることに御礼申し上げます。おかげさまで、平成19年の立ち上げ以降、H20年から9年連続で被害額が減少するなど、一定の成果が見られています。しかし、いまだ深刻な被害は続いており、引き続き関係部局が連携しての取組をお願いします。</p> <p>野生鳥獣被害対策関連施策は、本年度も引き続き、野生鳥獣に負けない集落づくり、ニホンジカの捕獲の促進などを考えています。また本日議論したいのは、最近話題となっているツキノワグマを始めとする野生動物の出没がございまして、来年が周期でいきますと大量出没するといったことも予想されておりますので、各部局の連携・協力に被害防止を進めていただきたいと思います。</p> <p>近年本会議は、年2回の形で進められてきておりますが、今年度からより活発な意見交換ができるように新たな取り組みを検討しているところです。</p> <p>まず、今回は、最近問題となっているクマなどの出没に関する認識の共有をすることを目的に、研修の機会も設けております。</p> <p>限られた時間ではありますが、活発なご意見ををお願いします。</p> <p>ではどうぞよろしくお願いいたします。</p>
事務局	<p>ありがとうございました。</p> <p>それでは、会議は、恒例により林務部長の司会で進めさせていただきます。山崎部長よろしくお願いいたします。</p>
山崎林務部長	<p>司会をつとめさせていただきます林務部長の山崎 明でございます。よろしくお願いいたします。今回会議はできるだけ説明はコンパクトに意見交換をしっかりとやっていきたいことと、現場でクマ対策などにご苦労されている濱口さんにいろいろお話を聞く機会を設けるという構成で進めさせていただきます。</p> <p>それでは、会議事項の(1)「野生鳥獣被害対策基本方針について」事務局から説明をお願いします。</p>

佐藤鳥獣対策・ジビエ振興室長	<p>「長野県野生鳥獣被害対策基本方針」について説明いたします。</p> <p>「長野県野生鳥獣被害対策基本方針」については、平成19年11月に被害対策本部、被害対策チームの設置に合わせて、本県の野生鳥獣被害の対策の基本方針と目標を定めたものです。</p> <p>昨年度、しっかり整理させていただきましたが、今回、地方事務所が地域振興局に変わった分などを整理したいと思います。</p> <p>併せて「長野県野生鳥獣被害対策本部設置要綱」も組織の変更部分を整理したいと思います。</p> <p>御了解いただければと思います。</p>
山崎林務部長	<p>ただいまの説明にございましたように変更するということですが、この件に関して、ご質問等ございましたらよろしくお願ひしたいと思います。</p> <p>農政部はいかがでしょうか。</p>
伊藤農業技術課長	<p>ありません。</p>
山崎林務部長	<p>それでは、ただ今説明のとおり、改正についてご了解いただきたいと思います。</p> <p>(委員 了承)</p>
山崎林務部長	<p>続きまして、</p> <p>(2)「平成28年度 野生鳥獣による農林業被害等の状況について」事務局から説明をお願いします。</p>
佐藤鳥獣対策・ジビエ振興室長	<p>野生鳥獣による農林業被害について説明いたします。</p> <p>なお、この数字については国に報告を上げた段階で精査される場合もありますので、「速報値」ということで御理解ください。</p> <p>上の表に示しますとおり、県下の農林業被害は、関係する皆様の御尽力のおかげもあり、平成19年度から減少傾向となっており、昨年度も9億2千万円余と引き続き減少傾向となっています。</p> <p>これは、県下に被害対策が浸透してきたこと、またニホンジカについては捕獲が進んできたことが大きいと考えています。</p> <p>下の表に示しますとおり、加害獣は全体として、ニホンジカが一番大きく4割弱、ニホンザル、ツキノワグマ、イノシシが1割程度で続きますが、サル、鳥類の減少率が1%未満と他の鳥獣と比べて少なく、今後、課題となってくる可能性もあると懸念しております。</p> <p>地域別に見ますと、上のグラフが農林別、下のグラフが加害獣別となりますが、ニホンジカとツキノワグマによる造林木の樹皮剥ぎ被害により、相変わらず南信州地域が突出しています。</p> <p>農業被害は南信州、長野、上伊那地域などの作物単価が高い果樹被害が発生する地域で大きくなっています。なお、大小の差はありますが、いずれの地域も減少となっています。</p> <p>被害の内容は、ニホンザル、イノシシは農業被害が主、ツキノワグマは林業被害が主、ニホンジカは農業、林業両方の被害となります。</p>
山崎林務部長	<p>それでは関連しますので、</p> <p>(3)「平成28年度 ニホンジカの捕獲実績について」と最後の「平成29年度 野生鳥獣被害対策の主な取組について」事務局から説明をお願いします。</p>

<p>佐藤鳥獣対策・ジビエ振興室長</p>	<p>ニホンジカの捕獲実績について説明いたします。 ニホンジカについては、平成13年度に第一期の特定鳥獣保護管理計画を策定して27年度末の第三期計画までの間に28万頭弱の捕獲を進めてきました。 しかし近年、シカが捕獲しづらい状況が生じており、25年度、26年度には4万頭弱であった捕獲が27年度には、31,885頭と目標の4万頭には届きませんでした。 昨年度はこの傾向がさらに顕著になってきており、25,733頭と5年ぶりに3万頭を下回ってしまいました。 昨年度開催した、ニホンジカ管理のための専門会議において、専門家からスレジカ（捕獲が進んだことにより警戒心が高まり捕獲しづらくなったシカ）が増えている可能性についての懸念が示されていましたが、その可能性がいよいよ濃厚になってきたものと考えております。 ニホンジカの管理は、従前から生息の多かった「関東山地」「ハケ岳」「南アルプス」の3つのエリアに加え、近年分布が拡大している5つのエリアの計8つの管理ユニットごとに対応しています。 事例として三つのエリアの捕獲の推移を示しております。縦の実線は全体の捕獲目標で破線が個体数の管理に重要なメスの捕獲目標ですが、南アルプスユニットでは目標を達成しつつ捕獲数が減少してきており、捕獲の効果により生息数が減少に転じるとともにスレジカ化が進行しているのではないかと推測されます。 関東山地ユニットについても、規模は小さいですが同様です。 ハケ岳ユニットについては、目標が達成できない中で捕獲が減少しており、別の原因によりスレジカ化が進行していることが推察され、従来とは異なる新たな手法での捕獲の推進が必要ではないかと考えられます。 なお、南アルプスや関東山地などの生息数が減少に転じた可能性のあるユニットについても、気を緩めることなく、まだまだ継続的に捕獲することが必要であり、生息密度の低下とスレジカ化に対応するためにも、ハケ岳とは違った、実情に応じた新たな手法の検討が必要ではないかと考えています。 参考までに地域振興局ごとの捕獲の推移も示します。減少傾向ですが、昨年度も佐久管内が6千頭オーバーで最多となっています。</p>
<p>佐藤鳥獣対策・ジビエ振興室長</p>	<p>本年度の主な取組について説明いたします。 野生鳥獣被害対策については、「長野県野生鳥獣被害対策基本方針」に基づき、長期目標である「野生鳥獣との緊張感ある住み分けの実現と農林業・自然環境・人身への被害の軽減」を目指し、農作物や造林木、自然環境を守るための「防除対策」、鳥獣が出没しにくい環境とするための「生息環境対策」、捕獲者の確保・育成や実際にニホンジカ等を捕獲するための「捕獲対策」を各部局の連携で推進するものです。 またそれらに付随し、捕獲せざるを得ないニホンジカを地域資源として有効活用し、信州ブランドとしてのジビエを振興することにより、「豊かな地域づくり」も目指すこととしています。 「Ⅰ 捕獲者の確保・育成対策」については、引き続き、今まで同様に推進していきます。 「Ⅱ 効果的な捕獲対策」についても引き続き推進していくとともに、先程も説明した「スレジカ化」を想定した先進的な捕獲技術の調査検証に新たに取り組めます。 また昨年度実施した夜間銃猟の実証やGPSによる行動把握も継続します。 「Ⅲ 防除対策」「Ⅳ 生息環境対策」についても、引き続き侵入防止柵の設置等や里と森の間の藪の刈払いなどの緩衝帯整備等を進めていきます。 「Ⅴ ジビエ振興対策」については、現在、信州デスティネーションキャンペーンも踏まえてJRとも連携しながら各種イベントを展開しております。 また後程、情報提供いたします。</p>
<p>山崎林務部長</p>	<p>一括で説明をいただきました。野生鳥獣被害は減少傾向をしめしているものの、依然高止まりであるということと、地域別の被害は、林業被害を除くと南信州、長野が高く、地域で差が出ている。シカ対策については、スレジカ化という新たな課題が発生してきている。鳥獣対策の中でのそうした状況をふまえた調査を実施していくとのことでした。これらについてご意見、ご質問があればお願いします。</p>

関環境部長	スレジカについて前回についてありましたが、環境関係だと高山帯の植生に関する影響が深刻な状況になってきているのですが、スレジカが増えてくる中でどうやって生態系を守っていくかということで、先ほどの説明の中では、スレジカ対策として先進的な捕獲技術を導入するということでしたが、具体的にはどのように進められているか教えていただきたい。
佐藤鳥獣対策・ジビエ振興室長	昨年度から、夜間銃猟を始めております。それ以外にも先ほど説明いたしましたとおり、スレジカ化の状況が、地域によってずいぶん異なる南アルプスのようにすでに減少に転じている中で、捕れづらくなってきているエリアと、減少しているとは思えないにもかかわらず捕れなくなっているハケ岳のようなエリアで手法などが異なると考えております。 このことにつきましては、専門家に集まってお話をいただきまして地域ごとにどういう捕り方がありうるかというような検討から今年進めていきたいと考えております。 やり方としては、いろいろな方法がありますが、スレジカ化に対する対応としましては、餌付けをして一度警戒心を解いて、すべて捕ってしまうというような方法を考えられるかと思いますが、今後専門家の方々のお話を聞きながら、進めてまいりたいと思っております。
関環境部長	検討研究中とのことですので、ぜひ早期の対策を具体化できるようお願いしたい。前回の本部会議の中でもツキノワグマの目撃数など周期の話を受けて、環境保全研究所でクマの出没の予測など今後できることをお願いして、総合的に検討してもらっております。 本日は環境保全研究所の陸自然環境部長が参加させていただいておりますので、若干説明させていただいてよろしいでしょうか。
山崎林務部長	お願いします。
環境保全研究所 陸自然環境部長	環境保全研究所自然環境部の陸と申します。クマの4年ごとの大量出没に関しては、全県ですとそのようにみえるのですが、地域振興局ごとにみますと、北信、中信ではそういう傾向があるところもありますが、北信では2年ごと、木曾ではそうでなかったりと地域振興局ごとに違っているということがわかります。地域振興局ごとにどのような出没をしていくのか、またその時々ごとに主に堅果類の豊凶はどうなっているのか。こちらで収集されている捕獲されたツキノワグマの個体数の変動、年齢などのデータ、気象データ等で予測をするというモデルづくりを進めています。モデルができてくれば、ある程度科学的な根拠をもって、この地域では豊凶調査等のデータ等でこの秋は出没が多くなるなど予測が出せるようになると考えられます。来年度はクマの大量出没が危険視されておりますので、来年はモデルを完成させて報告できればと考えております。
山崎林務部長	ありがとうございました。他にありませんでしょうか。
中島副知事	環境部長さんからスレジカが増えてきているとのこと、そのシカが山奥に行くと、生態系被害が出しているという議論を少ししてきたのですが、なかなか難しいと思いますが、山の植生に対する被害が増えているといったことはデータでわかるのでしょうか。
関環境部長	定量的データという訳ではなく、ライチョウサミットを開催した際に南アルプスの食害の話があり、一気に被害が広がってライチョウが住めなくなったという話があり、そうした被害箇所が広がっているとのこと。
中島副知事	そのように状況が少し変化してきているのであれば、発信していただきたい。対策の検討で農村部には出てこないが、山に行ってしまうといった問題であるので、環境部と林務部で連携を図っていただきたいのですがどうですか。
山崎林務部長	事務局いかがですか。

佐藤鳥獣対策・ジビエ振興室長	自然環境被害については、集計などをするシステムが今はないので、ぜひ連携させていただき情報収集させていただければと思います。
山崎林務部長	他にはいかがですか。 (4)のその他をお願いします。
佐藤鳥獣対策・ジビエ振興室長	被害対策本部会議については、近年は年2回の開催が定例化しておりましたが、本年度は議論をより活性化させていただくため、スケジュール等を少々見直したいと考えております。 今回、第1回目を開催しているところですが、この後に、より深い意見交換をいただくために講義をセットしてみました。今回の様子も見ながら、今後も必要に応じてテーマを決めて議論いただくこととし、その際に必要であれば講義等をセットしていきたいと考えています。 また、8月から10月にかけては、現地での検討を予定したいと考えております。現地で何が起きていてどんな対応をしているかを御覧いただいたうえで議論いただければと思います。なお、候補地は現在検討を進めています。 3回目は2月の上旬を目途に、各地の取組状況を報告させていただいたうえで、次年度に向けた意見交換をいただければと思っています。 なお今年度から、被害対策支援チームを活性化するため、研修も年3回とし、より総合的かつ実践的なものに見直しております。
山崎林務部長	ただいまの点についてご質問、ご意見いかがでしょうか。 よろしいですか では、本日は現場でご苦労されている実態を皆様にも共有いただく一環として、濱口あかりさんにご出席いただいております。濱口さんは、信州ツキノワグマ研究会の会員でもありますし、広域鳥獣保護管理員の立場でも様々なご苦労いただいているところ です。 その中でツキノワグマの人身被害防止の日頃の実践に則したお話をさせていただきたい 思います。濱口さんよろしくをお願いします
濱口あかり氏	信州ツキノワグマ研究会の濱口と申します。本日はよろしくお願いたします。 私からは、「信州におけるツキノワグマとの向き合い方―生態や行動、対処法―」として、ツキノワグマの話をさせていただきます。本日お話ししたいことは、信州に生息しているツキノワグマの生態、ツキノワグマと人との軋轢、クマへの対処方法の3本立てで進めさせていただきます。信州ツキノワグマ研究会は1996年からツキノワグマの保護管理に携わっています。 講演要旨 別紙のとおり
山崎林務部長	濱口さん大変わかりやすいお話ありがとうございました。今のお話につきましてご質問があればお願いします。
関環境部長	山に入るとき、鈴を持っていくのですが、臭いに敏感だというお話しでしたが、臭いを使ってここに近寄らないようにするようなことはできないのでしょうか。
濱口あかり氏	その時その時で臭いの意味が違ってきますので、臭いを使っては難しいのではないのでしょうか。オオカミの尿の臭い等の例でも馴れてしまえば効果がない。声や人から発せられる音の方が確実に人と認識しやすいと考えられます。
山崎林務部長	では他にいかがでしょうか。
井上文化財・生涯学習課長	万が一遭ってしまったとき、目を見るとかは効果があるのでしょうか。

濱口あかり氏	よく聞かれるのですが、ぼったり出遭った時には真っ黒で目がよくわからないこともあります。顔や鼻を中心に変化を見ながらあとずさりするのがよいです。見続けないと負けるという訳ではなさそうです。
中島副知事	里山で緩衝帯を作ったり、間伐することで実のなる木が出てくるなどあると思いますが、どこから整備を進めるかという中で、クマがでてくるようなところはわかるのか、わかればそういう箇所を集中的にということも考えられるのですがいかがでしょうか。
濱口あかり氏	出てくるルートは似ている場合があります。しかし、どちらかという食物環境に影響されます。針葉樹の間伐跡地で、切り捨て間伐木に着いたアリを食べたりすることもわかってきており、その場所ごとのクマの食物の利用を加味しながら検討するのが良いと思います。
山崎林務部長	東北に人食いグマが何頭かいるというニュースもありますが、その点に関して意見を聞かせてください。
濱口あかり氏	昨年4名の方がなくなり、何人の方がけがをされたということは、クマの研究者のネットワークの中でも大きな議論となった。絶対ないとは言いきれないが、はじめとも言える事例でクマが人をつけて襲っているとの話も出る状況下で、まずまれな事例といえると思います。県内で実施されてきた学習放獣で唐辛子スプレーなどをかける、爆竹などで威嚇するなどして人が怖いことを学習させて放獣してきましたが、そうしたことをすると人を恨んでクマが襲ってくるという話もありました。しかし、私自身50回以上そうした場所に立ち会ってきていますが、一度もクマに後ろをつけられたりしたことはありません。クマが肉を食べないわけではなく、雪崩で死んだシカの死骸やワナで動けなくなったシカを食べた事例はありますが、まずクマが人をつけねらうことは、基本的にはないと思います。
山崎林務部長	よろしいでしょうか。濱口さん大変参考になる話ありがとうございました。もう一度拍手をお願いいたします。 最後に事務局お願いします。
佐藤鳥獣対策・ジビエ振興室長	信州ディステーションキャンペーンに合わせ、現在、県内および東京、名古屋の御協力いただけるレストランにおいて、「信州ジビエ食べ歩き」が開催されています。具体的な店舗等については、チラシのQRコードから見るができます。この機会に、ぜひ「信州ジビエ」を御賞味ください。 なお、協力店舗には、この「信州ジビエの店」のプレートがつけてありますので、訪れる際の目印にしていいただければと思います。 また、7月19日を皮切りに銀座NAGANOにおいて、信州を知る様々なゲストから信州と信州ジビエについて、いろいろな角度から語ってもらう「信州魅力発見cafe」を5回シリーズで開催します。 第1回の「C. W. ニコルさん」と、大町市で信州ジビエマイスターとして信州ジビエを提供いただいている「児玉信子さん」の回は、早々に満席となっておりますが、2回目以降も先ほどのQRコードから見ることでできるホームページ等で募集して参ります。 最後に、毎年、長野市の南千歳公園で開催されている「ワイン&シードルガーデン」に、今年はジビエも加えていただくことになりました。夏の終わりの夜を、信州産のワイン、シードルと信州ジビエを合せて楽しんでいただければと思います。
山崎林務部長	信州ディステーションキャンペーンがすでに始まっております。ジビエの振興の様々なイベントが進行しております。信州ジビエの看板は、鳥獣対策・ジビエ振興室が手作りついておりますので、出来上がり次第順次かけていただくということでプレスリリースをさせていただいたところです。この看板を見かけたら、入って必ずジビエを食べて、おいしい長野の日本酒も味わっていただくようよろしくお願いいたします。最後に全体を通して何かご意見はいかがでしょうか。

中島副知事	今回クマに関して貴重な講演ありがとうございました。環境保全研究所の方でもクマの出没について地域振興局ごとに見た方がよいという話もありましたので、しっかり情報を共有しながら、クマには出会わないように対策を強化できるようによろしくお願いいたしますと思います。
山崎林務部長	ありがとうございます。これで会議は終了したいとも思います。
事務局	部長ありがとうございました。これで第一回野生鳥獣被害対策本部会議を終了させていただきます。

5 閉会